

地域懇談会「町内会・自治会を取り巻く課題について」

実施結果概要

懇談のテーマ	参加意識の低下・未加入・脱退 (町内会・自治会の重要性の浸透) 役員の育成・なり手不足 ほか
実施期間	平成 25 年 6 月～9 月
実施回数	全 13 回 (中学校区ごとを目途に、参加対象者多数の学区は分割実施)
会場	コミュニティセンター、公民館等
参加対象者	町内会・自治会長、公立集会所運営委員長
参加者数	171 名

この資料は、地域懇談会での発言内容を、テーマ別に現状と課題、取り組み・解決策に分類し、とりまとめたものです。

懇談のテーマとして、町内会・自治会を取り巻く課題のうち、「参加意識の低下・未加入・脱退」と「役員の育成・なり手不足」を設定しましたが、その他の地域課題について意見交換されることも少なくなかったため、それらの内容は「魅力づくり・活性化の取り組み」としてまとめ、併せて記載しました。

また、市への要望、意見などは、「町内会・自治会に関する市への意見」としてまとめています。

なお、とりまとめにあたって、同様の趣旨の発言は集約を行っています。

1. 参加意識の低下・未加入・脱退

現状と課題

未加入・脱退の状況

- 加入世帯数が大幅に減少している、やや減少している。
- 90%以上の加入率を維持している。
- 結成2年目だが、既に脱退者がでている。
- マンション、アパートの住民に加入を呼びかけても加入してもらえない。
- 子どもがいるときは町内会・自治会に加入されているが、中学校を卒業すると町内会・自治会の行事も少なくなり、脱退者が出てくる。
- 脱退されるときは、隣近所と話し合っているらしく、同じ組で脱退者が出る。
- 脱退されると、二度と戻ってこない。
- 加入しているメリットが感じられない。
- 共働き世帯の増加で町内会・自治会活動に参加できない。
- ひとり暮らしで高齢になると、町内会・自治会の助けを受ける必要を感じ、再加入される人がいる。

脱退と役員の負担感

- 役員を担うことの負担感が、脱退の原因の一つになっている。
- 役員をしたくないから脱退するのが、脱退する理由の大半である。
- 輪番制で役員が回ってくる直前になって脱退される。
- 役員改選期前に脱退される。
- 役員になる時期を見越して、その2、3年前に今が辞め時と脱退される方が非常に多い。
- 高齢で役員を担うことができないことから、脱退されるケースがある。
- 会費を払いたくないから加入しない人よりも、役員をしたくないから町内会・自治会に加入しない人の方が多いと思う。
- 町内会・自治会が煩わしい、役員ができないという人がかなり多い。

未加入・脱退から派生する課題

- 災害が起こったときに、未加入者だからと言って放っておけない。やはり、どう加入していってもらうかが課題である。
- 防災、地域福祉への取り組みを始めているが、未加入、脱退者への対応が難しい。町内会・自治会に加入していないからと言って放っておく訳にもいかない。
- マンション、アパートの住民の未加入が、ごみ問題など地域課題につながっていく。
- 脱退者は会費を払わなくていいし、役員もしなくていいが、行政等の回覧は回して

いるので、不公平感につながっている。

- 脱退者が会員と同様、町内会・自治会費で作ったごみ回収場所のダストボックスを使用していることが、不公平感を生んでいる。

取り組み・解決策

加入促進

- 加入促進策は、チラシを配布するだけでは効果がない。役員以外も含め日頃のつながりを通じて呼びかけていく必要がある。
- ごみ問題を課題として取り組んでいたところ、知らん顔している人もいるが、町内会に加入するという方が少しずつ出てきた。
- 自治会に入っていない方にも声をかけて防災への取り組みを始めたところ、役員はできないとのことであるが、改めて自治会に加入していただける方がわずかではあるが出てきた。
- 未加入者には、会長が一生懸命説得に行き、防災、ごみの問題などゆっくり話をしながら、説得している。

脱退対策

- 脱退の申し出は、組長で受け付けせず、会長など3役がその都度面談している。
- 災害の際、町内会・自治会に加入していないことの不利益を伝え、脱退しないように呼びかけている。
- 会長職務として、脱退希望者がでたらすぐに飛んで行って、事情を聞いて話し合っている。

その他の取り組み

- 町内会・自治会の正会員以外に準会員を設けている。準会員は役員には就かないが、正会員の半額程度の会費を支払ってもらっている。
- 町内会・自治会とは別に自主防災会を組織し、災害の際は、町内会・自治会員以外も含め取り組むこととしている。防災訓練には、町内会・自治会員以外も一部参加されている。

2. 役員の育成・なり手不足

現状と課題

役員の負担

- 行事中心の町内会・自治会の運営が、役員の負担につながっている。
- 大きな行事は皆が協力してくれるが、細かな会長の負担は残る。
- 回覧物の多さが、役員の負担になっている。
- 年4回の募金集めが、役員の負担になっている。
- 募金を1軒ずつ集めるのが、役員の負担となっている。
- 各種地域住民団体の役員を町内会・自治会の役員から選出することが、負担となっている。町内会・自治会の役員になると、各種地域住民団体の役員への就任を慣例的に依頼される。
- 町内会・自治会と各種地域住民団体との連携は必要だと認識しているが、関連行事の実施など、連携すると負担が増える。

高齢化

- 地域全体が高齢化しており、役員のなり手不足につながっている。
- 地域全体が高齢化しているため、高齢者を免除すると役員のなり手がいなくなってしまう。
- 役員の定年制を導入したいが、どこで線引をすればよいのかが悩みの種である。
- 70歳を超えると役員を辞退できるという制度にしたが、順番がすぐに回ってくる。

引き継ぎ・継続性・リーダーの育成

- 役員間の引き継ぎが書類を渡されるだけで、十分な引き継ぎがなかった。
- 役員が1年交代のため課題が先送りされ、解決の糸口がつかめない。
- 役員が毎年交代する中で新しい取り組みをすることは難しいが、役員の任期を長くすればよいということではなく、地域のリーダーの育成が必要だと思う。

その他

- 転入して間もない、組長もやったことがない人が、会長ほか3役などの役員になっているケースがある。
- 自治会費は払うが、役員にはなりたくないという話を聞く。
- 今までは選挙で役員を決めていたが、なり手がないことから、選出方法が抽選に変わった。
- 三役のなり手は、なかなか難しい。
- 役員を担うことの負担と役員のなり手が不足しているのは、関係性があると思う。

取り組み・解決策

役員の負担軽減

- 各種地域住民団体の会合への出席を、団体毎に複数の副会長で分担し、負担の軽減を図っている。
- 会長に負担がかかりすぎないように、分野ごとに3役で業務を分担している。
- 会長を経験された方が顧問や相談役になって、会長をサポートしており、みんなで支え合って自治会を守っている。
- 大きな行事は、その年の役員に余り負担がかからないように、皆が協力している。
- 役員の活動に関する事務費、交通費などはきちんと支給するようにしている。
- 特定の役員に負担がかからないように、役員の中で気がついたひとができることをするように心がけている。
- 家庭の事情で役員の業務をこなすことが難しい世帯が役員となってしまったが、他の役員が実務を代行して対応した。
- 1度役員をするとその後一定の期間は役員を免除している。
- 回覧物は、緊急性の高いものを除き、まとめて各組へ配布するようにしている。
- 募金は、会員に承諾を得た上で、年会費に含めて集金している。
- 募金を組長が集金するのが大変なので、組長宅のポストに届けることとしたが、そんなに額は下がらなかった。
- 募金は強制ではないし、出さないところがあればそれでよいと思っている。自治会が主導権を持った形でやっているなので、負担には感じていない。
- 各役員との連絡は、全部メールでやっている。
- 地蔵盆を町内会・自治会が中心となって実施していたが、子供会に協力をお願いしたところ主体的に動いてくれることになった。

高齢化対策

- 70歳以上は役員を免除している。
- 70歳以上は役員を原則免除するが、本人からの申告制にして、元気な方で本人の了解があればやってもらっている。
- 地域と顔を合わせるために、70歳以上の方でも動ける限りは役員をし、参加してもらうようにしている。

引き継ぎ・継続性・リーダーの育成

- 役員任期を2年とし、1年ごとに半数ずつを改選して、継続性の維持を図っている。
- 役員の継続性を持たせるため、前役員が次の役員を推薦し、前役員はもう1年役員に残ってもらい、うまく引き継ぎができるような仕組みを作った。
- 行事をするのに少し人手が欲しいときは、サポーターという立場をつくって協力してもらい、来年その人が役員になるようにしている。
- 役員の任期は年度ごとであるが、新年度の役員を早めに選出し、前年度の12月ごろから活動に参加してもらい、継続性の維持を図っている。
- 役員経験者が、任期終了後もアドバイザー、顧問などとして残っている。
- 防災については継続的に取り組む必要があることから、他の役員とは別に防災担当役員の任期を2~3年とすることを考えている。
- 副会長は広い世代から選出し、次世代の育成に努めている。

役員を選出

- 会長以外の役員は各組から選出しているが、一番負担の多い会長については会員全体の中から自薦、他薦含めて選出することとしており、役員選出にあたっての負担感の軽減を図っている。
- 各組から1名ずつ毎年役員を出しているが、組によって世帯数が違い、世帯数が少ないと役員が早く回ってくることから不公平感があるが、組の再編成することでの対応を検討している。
- 高齢化で組長が選出できない組があることから、組をまたがって立候補、選出することができるように会則を改定した。

3. 魅力づくり・活性化の取り組み

現状と課題

- 阪神淡路大震災のときにボランティアに参加し、町内会・自治会がある地域とない地域の差を見て、町内会・自治会の本来の目的を痛感した。
- 昔は、回覧を手渡しして、一言二言世間話して親睦を図っていたが、今はそうではない。
- 組長が、会費の徴収など一軒ずつ訪問し、会話の中でいろんなことを掌握してもらおうというのが大事かと思うが、実際実行に移せるかといえば役員の負担が増えるので悩むところである。
- 参加したら得をするということだけではなくて、入っていたら普段からから色々な情報がもらえて、声もかけてもらえるというような町内会・自治会に変えていく必要があると議論をしているが、なかなか難しい。
- 会員のコミュニケーションは大事だが、役員の負担になるので、行事が減ってきている。
- 各種地域住民団体への参画を辞退したところ、他の地域とのつながりがなくなってしまった。
- 昔からある住宅地に若い世帯が転入してきたときに、溶け込みにくい。世代間の交流を図る事業がない。
- マンション、アパートの住民に加入してもらったが、参加率が低い。
- 自治会活動をしていて、この先何があるのか見えない。
- どうやったら参加してもらえるかを考えていくべき。参加しないとわからないこともある。
- 平日は仕事で活動できないので、土日に町内会・自治会活動に取り組んでおり、役員の大変さとともに町内会・自治会活動の大切さを感じている。
- 町内会活動というのは、昔の井戸端会議であり、井戸端会議に相当するようなコミュニケーションが、非常に重要だと思う。
- 寝たきりや体の不自由な方の世帯を把握したいが、個人情報保護の観点から難しい。

取り組み・解決策

- 子どもを対象とした事業を実施することで、親の世代が事業に参加してくれた。
- 地域、町内会・自治会の役割として、子供を大切にすることということで、地藏盆、お祭りであったりとか、ラジオ体操であったりとか、子供に対する事業は欠かさないようになっている。

- 子どものいる世帯といない世帯のコミュニケーションがとれていないので、それを何とか解消するためにレクリエーション（夏祭り）を開催する予定をしている。
- 子どもが少なくなったので、地蔵盆はするが会員の懇親会をメインとしている。
- 月に1回ぐらいは少人数でもいいので会員が集まれる機会を作り、顔を合わせられるようにしている。
- とにかく人が集まることで町内会・自治会のコミュニケーションがとれるので、色々な行事をずっとやっている。
- 古くからの集落の永年活動している町内会・自治会では、昔からの行事を全て継続して実施している。
- 敬老会は、粗品を持って挨拶に回るというような方法だったが、今年度は、極力、集会所に集まっていただいて、イベントをしながら一日を楽しく過ごしていただくという計画をしている。
- レクリエーションの日帰り旅行を、初めて業者に丸投げした。日程と行く場所、日帰りどれぐらいの予算でいけるかと言ったら3案出してくれた。参加者も増え、喜んでいただいた。うまく専門業者を使っていけないといけないと思う。
- 若い人の多い地域は、その人たちを動かせれば、やり方は近隣の町内会・自治会でいろいろ聞くなりすれば、これから先の展望が開ける。
- 会員にアンケートを実施し、魅力づくりに取り組んでいる。
- 連合町内会は、町内会・自治会の負担にならないよう防犯、防災、市への要望などの分野に絞って活動している。
- ゴミ袋の透明化に伴い、町内会員には定期的にゴミ袋を配布している。
- 公園清掃の参加者に商品券を配布したところ、好評であった。
- 古紙回収の報奨金を、町内会・自治会活動に活用している。
- 古紙回収の収入により、町内会費を全額賄っている。
- 会員名簿はデータで管理している。また、役員に配布した個人情報関連資料は、任期終了後に回収し、溶解処分している。問題なのは、情報の管理のあり方だと思う。
- 自主防災組織をつくり、市に届け出ることによって、要援護者の情報提供を受けている。

4. 町内会・自治会に関する市への意見

- 町内会・自治会の活動事例など市から広報してほしい。
- 災害時の避難指示の広報などは、町内会・自治会に協力を求めるべき。
- 町内会・自治会に入っているメリットを、市が作ってほしい。
- 市は回覧物を充実し、町内会・自治会に加入しているメリットをつくるべき。
- 様々な団体からの回覧物の依頼は、市がとりまとめ、町内会・自治会に発送してほしい。
- 町内会・自治会の仕事を減らすことはしても、増やすことはしないでほしい。
- 町内会・自治会にとって、募金集めが負担になっていることは、市から関係団体に伝えるべき。
- 町内会・自治会を財政的に支援してほしい。
- 新年度役員の市への届け出に合わせ、町内会・自治会活動に関係する市の窓口、連絡先などを新年度役員に教えてほしい。
- 過去、町内会・自治会の連合組織があったときには、学区で運動会や合同で大きく防災訓練も実施していたが、連合組織がなくなりできなくなった。連合組織がなくても地域が連携できるようなシステム作りを市にお願いしたい。
- 自治会結成2年目となるが、立ち上げの際、誰も教えてくれず、何をしたらよいか分からなかった。市が支援してほしい。
- こういう町内会・自治会の意見の交流をする場を、年に1回でも2回でもいいので持つということを行政の仕事としてお願いしたい。
- 道路、公園など環境整備についての要望はあるが、自治会の運営に関しては、むしろ口を出さないでほしいし、住民中心でやっていきたい。ほかの地域にかかわりが出てくるとか、市にかかわりが出てくる場合は相談していくが、我々の自治会の中で完結する問題に関しては、その中で自主性を持ってやっていきたい。